校長室便り

平成30年
11月15日号
編集・発行　校長

高鷲中学校
072－955－4488

世界に目を向けるきっかけになれば…

先日、１年生では「国際理解学習」に取り組みました。11 月 2 日にはドイツ、フランス、韓国の国籍を持つ方に来校していただき、各クラスで交流をしました。生徒たちにとっては外国の風習、文化などを知るいいきっかけになったと思います。私は旅行が好きで、外国にも何度か行ったことがありますが、外国に行くと日本では当たり前のことが当たり前ではなかったり、日本ではあり得ないことが普通に行われていたりすることが珍しくありません。これからますますグローバル化が進み、日本にも多くの外国人の方がやって来る時代になります。そのような中で、外国の方と触れ合うことは貴重な経験だと思います。

11 月 5 日にはフィリピンで貧しい子供たちの支援をしている中村さんの話を聞きました。ゴミを拾って生計を立てている、住む家がないから道路で寝起きする、満足な食事を食べることはできない、学校に行きたくても通うことが出来ない…そんな子供たちがフィリピンには、いや、世界中にはたくさんいます。そんな事実を知り、そして学校へ通えない貧しい子供たちを支援する人たちがいることを知り、生徒たちには大きな驚きや自分たちの環境との違いを感じました。そして、生徒たちが「自分たちにも何か出来ないだろうか？」と考え、ノートや鉛筆を寄付することを考えたことは、素晴らしいことだと感じます。ただ単に学んだだけでなく、学んだことから何か行動を起こそうとすること、それこそが本当の「学び」だと私は思います。

私は知人が海外青年協力隊の一員として、貧しい開発途上国に派遣されました。派遣先の学校の校長先生が、日本の歴史に興味があるらしく、私に派遣先の校長先生にメールで歴史の質問に答えてあげてほしいと連絡がきたので、校長先生と何度かメールでやりとりをしました。それが縁となり、校長先生から「ぜひ一度私の学校に遊びに来てください」とメールが来たんです。一生に一度しか出来ない経験だと思い、私は日本から飛行機を 2 度乗り継ぎ、30 数時間をかけて中米にあるベリーズという国の学校に行き、2 日間でしたが現地の小学校に行きました。

子供たちの多くは裸足で学校に来ていました。でも、どの子供たちの目もキラキラと輝いており、私に対して「日本人はベリーズという国のことを知っていますか？」「この国に来て私たちの国をどう感じましたか？」「私たちの学校と日本の学校にはどんな違いが

ありますか？」などと、次々に質問をしてきました。中には「日本には今も侍が歩いていますか？」「日本人は誰もが柔道をするのですか？」というような、思わず吹き出してしまそうな質問もありました。でも、みんなが何かを学びたい、いろんなことを知りたいと強い気持ちを持っていることが伝わってきました。

学校はプレハブのような建物で、校庭には草がいっぱい生えており、日本人の私からすると決して恵まれた環境ではありません。でも、子供たちは大切そうにノートを抱え、大事に大事に鉛筆を使い、食い入るように先生たちの話を聞いていました。この国では小学校に通える子供たちは恵まれている子供たちです。学校に通えない子供たちもたくさんいるそうですから。

2 日目の朝、5 人の子供たちが私のところにやって来ました。「これ、僕たちからのプレゼント」「朝から川に行って採って来たんです」と言うのです。一体何を持ってきてくれたのかと思うと、卵が５つありました。「これ、イグアナの卵です。食べてほしいから採ってきました」とのことでした。人生で初めて食べたイグアナの卵の味は、今も忘れられないいい思い出です。

旅行、ホームステイ、留学など、いろんな形がありますが、生徒たちには将来機会があれば外国に行き、視野見聞を広げてほしいと思います。今回の学習が、世界に目を向けるきっかけになることを願っています。